

私がなぜ現在の科目を選んだか

「新生児科と遺伝医療」

信州大学医学部附属病院遺伝子医療研究センター
信州大学医学部小児医学教室

神谷素子

私が医学生だった時代は、卒後は直接医局に入局する時代でした。学生実習で回った新生児集中治療室(NICU)で新生児医療を目の当たりにした私は、その世界にすっかり虜になりました。当時室長だった上司に憧れ、新生児科医になりたくて小児科へ入局しましたが、当然すぐにはなれませんので、大学病院や関連病院を転々としながら、医師5年目の時に憧れの上司の職場に配属されました。市中病院なのに、NICUも24時間小児救急も外来も全力でやっていて、上司に煽られながら必死で働いた8年は、私の新生児科医の基礎を作った大事な時間となりました。

そんな私がなぜ今信州大学で遺伝医療に携わっているのか。私は2012年から信州大学へお世話になっていますが、ライフステージも変化し、若い頃のように72時間寝なくても働ける体力もなくなってきて、以前か

私がなぜ現在の科目を選んだか

「精神科」

信州大学医学部精神医学教室

門馬拓未

中高生の頃、私はドラマが好きで、特に医療ドラマに夢中になっており、その影響から医師を目指すようになりました。ドラマの中で憧れていたのは外科医や救命医でしたが、様々な診療科のことを学ぶ中で、進路について悩むようになりました。大学の実習では診療科ごとにローテーションしましたが、精神科の実習で、患者さんと話すことも治療になり、患者さんの背景、性格、社会的適応、家庭など多種多様な要素を含めて治療を考えていて、率直に面白いと思ったのを覚えています。実習中には児童精神科外来の見学する機会もあり、そのときは不登校児童の診療でしたが、小学生の時に不登校の友人がいたこともあり、「このような世界があるのだ」と思い、児童精神科にも強い興味を持ちました。また、実習中にゲーム障害のセミ

ら考えていたNICUで経験する先天疾患の赤ちゃんへきちんと対応できるようになりたいという思いから、古庄知己先生にご相談させていただいたことがきっかけです。遺伝医療は凄まじく進歩し、疾患関連遺伝子が次々にわかってきて、治療ができる遺伝性疾患も出てきています。遺伝学的検査が身近にオーダーできる時代になってきました。先天疾患を持つ赤ちゃんの診断や治療、フォローアップ、家族支援などはNICUから始まっており、新生児科医が最初に関わる医師となります。遺伝なんてわかんないから遺伝科に任せちゃいなよ、ではいかんと思ひ、一念発起してこの世界へ足を踏み入れ、3年の研修を経て遺伝専門医の資格をとりました。現在は遺伝子医療研究センターの外來業務をこなしながら、本来のフィールドであるNICUで先天疾患を持つ赤ちゃん達の診断や両親支援など安心できる関わりが持てるよう向き合っている毎日です。学生時代に虜になった新生児医療の現場でもはや早産児のルート確保は苦行とも言える年齢になってからも、このような形で関われることに誇りを持ち、日々精進していきたいと思ひます。

(琉球大平12年卒)

ナーを紹介していただき、そこでは人々がゲームの中でどのような体験をしているのかを体系的に整理して分析していて、大学入学後にゲームに熱中していた私は精神科という領域に深くのめり込むこととなりました。幸運にも、多くの先生方のご指導と配慮のおかげで、実習や初期研修中に精神科や児童精神科領域の多くの症例を経験することができ、精神科への興味はますます深まりました。

現在、病棟で成人の患者さんの診療をしています。精神科の病棟にはさまざまな患者さんが入院しており、話し方ひとつで患者さんに大きな影響を与えることがあります。難しいと感じる一方で、日々のコミュニケーションを通じて患者さんの考え方が変わり、その後落ち着いて過ごせるようになる姿を見ると、大きなやりがいを感じます。医療知識として学ぶことも多いですが、コミュニケーション面でも多くのことを学び、忙しい日々の中でも面白さを感じています。これからも日々研鑽を重ねていきたいと思ひます。

(信大令4年卒)